



みどりが丘だより

contents

いきいき健康フェア
血管撮影装置リニューアル
認知症ケアチームなつまつり
職場紹介／入院サポートセンター
ナースマンに聞いてみた
薬剤師の一口メモ
栄養管理室だより
信州上田地域連携だより

いきいき健康フェア 2024 を終えて

副看護部長 古田 博子



21世紀の高齢社会を支えていくためには、看護の心、ケアの心、助け合いの心を、私たち一人一人が分かち合うことが必要です。こうした心を、老若男女を問わずだれもが育むきっかけとなるよう、旧厚生省により「看護の日」が1990年に制定されました。この看護の日のイベントの一環として去る6月29日土曜日イオンスタイル上田で今年も「健康フェア」を開催しました。晴天に恵まれ地域の方々など約500人に上る来場者でにぎわいました。健康フェアは医療相談や健康チェックを体験していただくことで医療に対する知識や意識を高め、もっと病院を身近に感じてほしいという思いから開催しています。

私は、熊本県出身です。2016年4月14日と16日に震度7の地震の記憶は、その頃私は東京にいましたが、何年経っても薄れることはありません。伝え続けることが大事だと思います。そして、今年1月1日に発生した能登半島の震災から早6ヶ月



を経て、みな記憶から少し薄れそうな中、当院のDMAT（「災害急性期に活動できる機動性を持ったトレーニングを受けた医療チーム」災害派遣医療チーム Disaster Medical Assistance Team の頭文字をとって略してディーマットと呼ばれています）が能登半島での活動を知っていただく良い機会と考えました。

「骨密度」「体組成測定」「血圧」「握力」などのおなじみのプログラムに加え、今年はDMAT車の展示、手作りのDMATユニフォームには、医師、看護師等の職種が判別できるワッペンが付いているベストを着た写真撮影、能登半島での活動の放映など新しいブースも多数出展しました。

来場された方から「楽しかった」「おもしろかった」「かっこいい」という感想を多数いただいたほか、「病院を身近に感じることができた」「自分のからだのことを見直す良い機会になった」「DMATを知れて良かった」などのさまざまなご意見をたくさんいただきました。

これからも当院は地域に密着した、みなさまに親しまれる病院を目指して、職員一同努力してまいります。ご来場いただいたみなさま、誠にありがとうございました。

